

## 第1分科会記録

講師：浜本 奈鼓 氏（NPO法人 くすの木自然館 代表理事）

ファシリテーター：森本 美鈴 氏

（北九州市環境局環境国際戦略室アジア低炭素化センター  
運営支援センター係長）

記録：松尾 優輝 氏

参加者：12名

### 【テーマ】あなたにとってのESDとは！？

～環境教育NPO法人 くすの木自然館の取り組み～

### 【講演内容】

鹿児島湾北半部にある始良市重富地区での生態系調査を基に、地域資源としての海岸の再生を目標に5者（産・学・官・民・NPO）がそれぞれの立場で取り組んできた事例を紹介。

#### 問題点の解決

以前はごみが散乱していた地域が、2004年4月16日から毎日ごみを拾い、記録、分析しながら対策を練り、現在は1日のごみの量が2004年と比べ3分の1にまで減少し、海岸の利用者も10倍以上に増えている。これは海岸の利用者のマナー向上に繋がり、併せて治安も良くなりたくさんの方が訪れ、地元の人も海岸を誇りに思うという「正の連鎖反応」が起きている。

#### 問題点の解決

昔はたくさんの生物が生息していた海岸から、海が汚くなったから生物がいなくなったと思いついていたが、様々な環境調査や生物調査を実施して、多少の水質悪化はあるが干潟の地質が変化したことにより、それに順応する生態系への変化が行われていることが分かった。

「優先すべきは地域の利益。尊重すべきは地域の個性」

### 【グループディスカッション】

#### 自己紹介

参加者全員による自己紹介を行った。

#### 講義に対する質疑応答

- ・くすの木自然館の構成人数は？

現在12名で活動。次年度は8名程度になる予定。

- ・「負の連鎖」を「正の連鎖」に変えた苦労は？

それぞれができるところを見てもらう。また、人の取り組みを決して否定しない

ことが重要。企業のCSRも住民からやってもらいたいことを聞き、資金面や物品援助などで協力してもらった。

以前は全く耳を貸さなかった人でも、専門家等の話は聞いてもらえる。

- ・モチベーションを維持していく秘訣は？

錦江湾の国立公園指定に向け、干潟ビジターセンターの建設などに取り組んでいる。

#### 活動報告

- ・神奈川から福岡へ転居。団地だけの付き合いじゃなく地域に貢献したい。大きな食品工場の見学会を主宰した。情報を提供し、無理のない活動を心掛けている。
- ・マンション住まいで人との交流が少ないので町内会の会員になった。「うちエコ診断」や「環境家計簿」など、まずは自分が実行してそれを広めて行くことが重要と考える。
- ・自分の地域でも産・学・官・民・NPOの五角形が作っていけないか検討したい。海岸での清掃作業は身動きができないほど参加者があり、参加企業名は環境に配慮していることを、メディアを活用しPRしている。
- ・地域住民に自分が経営している産業廃棄物処分場の施設を見学してもらっている。また、「温暖化かるた」を作成し、子供たちにも好評である。
- ・今日の講義とその熱意に感動した。今後の参考にしていきたい。
- ・業界青年部の活動の参考になればと思い参加した。何事も人を集めることが必要であり、新しく始めることよりも継続していく努力が重要である。
- ・十数年前にも浜本さんの話を聞いたことがあり、自分ができることを探して実行して行きたい。
- ・若者をどうやって取り込むか。体力面でも若くないとできないことが多くある。若い人が仕事として取り組む環境も少ない。大学で研究している事は大学のものにするのではなく、一般・市民のものにすることが重要。ESDは生き方であることを伝え続けていきたい。
- ・強制せず、楽しく誰でも関わられる活動を行って行きたい。それには環境カウンセラーが中心となって行動し、課題を見つけネットワーク作りをする必要がある。

#### まとめ

ESDは一言で言うとこれまでの価値観を変えること。

地域の環境資源を守るには、課題を見だし、人を巻き込む運動を行うことが重要。

- ・ネットワークを作る。
- ・リーダー作り、得意なところから実行する。
- ・「負の連鎖」を「正の連鎖」へ。

**環境カウンセラー自身が「先ずは隗より始めよ」**